

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	猫の翻訳詩六編
Author(s)	吉中, 孝志
Citation	表現技術研究 , 19 : 117 - 122
Issue Date	2024-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/55148
URL	https://doi.org/10.15027/55148
Right	
Relation	



猫の翻訳詩六編

吉中 孝志 訳

「愛しい人が鼠を怖がったので、もしも自分の願いが叶うなら、猫になりたいと宣言する恋人」(The Lover whose Mistressse feared a Mouse, declareth that he would become a Cat, if he might haue his desire¹)

ジョージ・ターバヴィル
(George Turberville, about 1540-before 1597)¹

もしも別の生き物に変わるならば、

何に僕がなりたいと思ってる、と君は思う？

魚でもないし、鳥でもないし、虫でもないし、蛙でもない、

木に住まうリスでもないよ。

魚は、釣り針に、鳥は

鳥もちのついた小枝に捕まっちゃうし、

虫は、人の指が、そして蛙は

野雁が殺っちゃうもの。

木の実を上手に割る

のんきなリスも

獲物がなくてがつがつしたオオタカが、

死の恐怖におとし入れるもの。

だから僕はこの生き物たち皆を拒絶して、

猫になりたいと思ってる、

そして、こそこそ這う家鼠と戦い、

キーキー鳴くドブ鼠を引つ掻くのだ。

僕はいつもそばに侍り、

我が貴婦人の呼び声に応じて、

恐ろしい鼠から彼女を守る、²

居間で、そして玄関で。

台所では、殺されたくなくば、

やつは頭を出さないはずだ。

袋の中のえんどう豆も、彼女が

寝ている時に、触らせはしない。

家鼠は、恐怖で立ちすくみ、

チューチュー鳴くドブ鼠も同じはず。

これすべて僕はやるだろうな、もし
猫に変えられたなら。

(1) *Epitaphs, Epigrams, Songs and Sonets with a Discourse of
the Friendly Affections of Tymetes to Pyn dara his Ladie. Newly
Corrected with Additions, and set out by George Turbervile
Gentleman* (London: Henry Denham, 1567), sig. 124v-125r.

(2) ルネサンスの恋愛は、いわゆる宮廷風恋愛で、男性はその騎士道精神で高嶺の花的な女性に仕えるという考え方が支配的だった。仕えるためにはその女性の傍にいたことが必要だから、当時の恋する男性は、女性のすぐそばにある物やいつもそばにいられる生き物になりたがった。バルコニー・シーンで、シェイクスピアのロミオは、頬杖をついたジュリエットの手袋になりたい、と溜息をついたし、サー・フィリップ・シドニーのアストロフィルは、ステラの飼っている雀に嫉妬した。ジョン・ダンは、恋人のベッドに住まう蚤を題材にして恋愛詩を書いている。西洋絵画には、女性の肖像画の足元に忠実の象徴である子犬がしばしば描かれている。こういった伝統の中で、ターバヴィルは、猫を選んだのである。

(3) 原文では、Peareで「西洋梨」であるが、植字工が long s を読み違えたと仮定して Pease で訳出した。

幼い猫と菊の花 (‘The Young Cat and the Chrysanthemums’)

ウィリアム・カロス・ウィリアムズ
(William Carlos Williams, 1883-1963)⁽⁴⁾

君はちよこまか歩き、急に
まっすぐにではなく、前へ進み始める——
君のしっぽは、ピンと立って
はかない花がぎっしりついた
小枝の間を忙しく
動き回る。

滑らかな横腹で僕に
すりすりして、ちっちゃな白いおててで
僕の機嫌をとって、
うん確かに、君はかわいだけれども、
来てほしくなかったよ、
こころには。

(4) *The Collected Poems of William Carlos Williams: Volume
I 1909-1939*, ed. A. Walton Litz and Christopher McGowan
(New York: New Directions, 1986), p. 439. “The Young Cat and
the Chrysanthemums,” by William Carlos Williams, from *THE
COLLECTED POEMS: VOLUME I, 1909-1939*, copyright ©1938 by

歌うたう猫 (The Singing Cat)⁽³⁾

ステイヴィー・スミス (Stevie Smith, 1902-71)

それは込み合った列車で

閉じ込められた小さな猫でした

飼い主の女性が、彼のいらだつ苦痛を和らげるために

箱から彼を出してあげます。

彼女は猫を、その優雅な動物を

膝の上でぎゅっと抱きしめます

すると人々はみな猫に目を向けます

彼はとつても美しい。

でも、ああ、猫は爪を立てて、ああ、つついて、

飼い主の膝の上で向きを変え

それから哀調に満ちたメロディーで

無邪気な声を上げます。

猫が無邪気な声を上げます

声を上げ、彼が歌います

そしてひとり一人の表情に

優雅な微笑みをもたらすのです。

猫は無邪気に前足を上げて

飼い主の女性の胸にしがみつきます

そして皆が叫ぶのです、「あらんない

猫を、歌っているその猫を」と。

猫が無邪気な声を上げます

声を上げ、彼が歌います

すると猫の美しさがもたらす愛で

人々はみな温かい気持ちになるのです。

(5) *The Collected Poems of Stevie Smith*, ed. James MacGibbon

(London: Penguin, 1985), p. 367. Every effort has been made to

trace the copyright holder of this poem. The translator would be
interested to hear from any agent of the author.

部屋猫 (Apartment Cats)⁽⁵⁾

トム・ガン (Thom Gunn, 1929-2004)

女の子たちは起きて、伸びをして、ドアの所まで静かに歩いてくる。

僕の脚にすり寄って、喉をゴロゴロ。

一匹は僕の靴の周りをクンクン。

外の臭いがいっぱい付いている。

もう一匹は床でへソ天して寝転がり——
白い喉元の毛とお腹のモフモフをさらけ出す。

さて、もっと目を覚ますと、廊下を使って

『ベン・ハー』の再上演、

彼らのように、旋回し、疾走し、

今でも鼻はヒクヒク、

目はキラキラ、身体はビリビリ、

見たところ、いつもの思慮分別はどこへやら。

それから格闘だ。受け流し、前足どうしで取っ組み合い、

目を合わさないままのクリンチ、

しっぽをバンバン、押し殺したニヤーの声。

ところがしかし、どちらかの鉤爪が出ているのを感じると、

突如として立ち上がる、賢明な、何もなかった顔をして

そっと立ち去るすべをしつかりと心得ているからだ。

(9) *Thom Gunn: Collected Poems* (London: Faber and Faber, 1993),
p. 194. By permission of Faber and Faber (licence number:
P231102/004).

キヤット・スキヤット (Cat Scat)

イーモン・グレンナン (Eamon Grennan, 1941-)

僕はクレオ⁽⁸⁾がじっと聞いているのを見ている、我が家の猫が
モーツァルトの『魔的』をじっと聞いているのを。何を
あの子は聞くことができているのだろうか？ 何を

歌曲はあんなあの子の耳に伝えることができるのだろうか、
聞きながら、単調な音も鋭い音も、高い音も低い音も、

誰の仕事でもないように解読できるあれやこれやのごたまぜの音も、
でたらめの旋律の軽業師的な音も、世界のあらゆるノイズに

チューニングされたラジオのパラボラアンテナのように

旋回しているあの子の耳に？ もちろん、蝙蝠の方が、

その聴覚的生息域の中から物の真の形の音を

反射的に——しかも、飛びながら、ふるいにかけて、

それを上手くやるけれど。蝙蝠も『魔笛』だな！ 何という

至福か、と僕は感じ、そして訝る（この小さなスキヤットを終わ

らせるために）

猫はどうする、もしくは、どうできるだろうと。

(7) *Library of Congress, Poetry 180, Poem 116: Cat Scat* | *Library of
Congress* (loc.gov). By kind permission of the author.

(8) Cleo は Cleopatra に由来する女子名。リリでは、クレオパトラ・

ラインの入ったトラ猫の雌を彷彿とさせる。『魔笛』の時代設

定は、古代エジプトで、その頃、猫はバステト神のように神

格化されていた。

(9) 英語の *scat* には、歌詞の代わりに楽器を模した意味のない音を連ねる歌という意味と猫を追い払う間投詞として「しっ、あっちへ行け」という意味がある。ここでは、猫の聴覚を刺激して敵対する蝙蝠の発する超音波を指しているだろう。また、光と闇との対立が『魔笛』の主題でもあるので、蝙蝠は闇を猫は、バステトのように太陽と月の象徴として、光を表す対立構造が意図されているのかもしれない。

路地猫の恋歌 (Alley Cat Love Song)

ダイナ・ジョイア (Dana Gioia, 1950-)⁽⁹⁾

庭に入って来て、フレッド、
近所のぶち猫はもういないから。
庭に入って来て、フレッド。
あだし、蚤よけの首輪以外は、裸なのよ、
それにマタタビの匂いで酔っ払っちゃったわ。
網戸のそばで夜明けまで待ってるわね。

蛩たちは甘い匂いの樹液を出す木のところで求愛し、
夜鷹が松の木から叫んでるわ、
あのは狂想曲で言っているように思えるの、
「ああ、からし色と茶色のフレッド、あたしのものになってー！」って。
満月の光があたしの髭を燃えるように輝かし、

あたしの背中の毛が逆立つわ。

蛙たちが沼の中でガーガー鳴いている
あっちの岸からこっちの岸まで。
蛙たちには恋の痛みを静めるのに、すぐに過ぎ去るひと夏があるわ。
秋にはもう歌わなくなるのよ。
だから、今あたしを無視したら、あなたはあたしがドアのところで
引っ掻きながら、夜通しニャーニャー鳴くの聞くことになるわよ。⁽¹⁰⁾

(10) *Interrogations at Noon* (Minneapolis: Graywolf Press, 2001), p. 35.

“Alley Cat Love Song” from *99 Poems: New and Selected* Copyright
© 2016 by Dana Gioia. Translated with the permission of Graywolf
Press, Minneapolis, Minnesota, United States of America, www.
graywolfpress.org

(11) 一晩中、フレッドを呼び続けるとも他の雄猫と夜通し性行爲
をして声を出しているとも採れる。蛙との対比で考えると、
蛙には求愛期間が1シーズンあっても猫には一夜しかないと
感じている恋猫の哀れさが強調される。

(よしなか たかし、広島大学大学院人間社会科学科教授)

Six Poems on Cats in Japanese Translation

Takashi YOSHINAKA

Key Words: cats, English poetry, Japanese translation

I translated six poems on cats into Japanese with notes: George Turberville's 'The Louer whose Mistresse feared a Mouse, declareth that he would become a Cat, if he might haue his desire', William Carlos Williams's 'The Young Cat and the Chrysanthemums', Stevie Smith's 'The Singing Cat', Thom Gunn's 'Apartment Cats', Eamon Grennan's 'Cat Scat', and Dana Gioia's 'Alley Cat Love Song'.